

国際連携本部「国際学会・シンポジウム開催助成」

シンポジウム「日本と台湾におけるトランスジェンダーの人権保障と危機の現状」

開催報告書

1. 日時、開催場所、参加人数

・準備交流会 2025年6月5日(木) 19時～21時 4031教室。報告者5名、通訳2名、司会1名ほか主催者側、協力団体の台湾伴侶權益推動連盟、トランスジェンダージャパンのメンバー10名による事前打ち合わせ。

・国際シンポジウム 2025年6月6日(金) 18時～21時 グローバルホール。参加者は約100名。

2. 国際シンポジウムプログラム

18:00～18:10 開会&開催趣旨説明 鈴木賢(明治大学教授)

18:10～19:00 第1セッション 法的性別変更をめぐる法の現在

台湾 許秀雯(台湾伴侶權益推動連盟初代理事長、弁護士)

日本 渡邊泰彦(明治大学教授)

19:00～19:50 第2セッション トランスジェンダーへのバッシングの現状と対応

台湾 簡至潔(台湾伴侶權益推動連盟事務局長)

日本 畑野とまと(一般社団法人Transgender Japan代表)

19:50～20:00 休憩

20:00～20:30 第3セッション フェミニストとアンチトランスジェンダー

台湾 羅盤針(アメリカ・ミネソタ大学博士課程)

20:30～21:00 Q&A(質問は右QRコードから受付)

※日本語と台湾華語の逐次通訳による

通訳 劉靈均(明治大学非常勤講師)

梁鎮輝(宇都宮大学助教)



3. 開催結果

社会的関心の高いタイムリーなテーマだったため学内外から多くの聴衆が来てくれた。報告者の報告はいずれも質の高いもので、ポイントが要領よく整理されたものであった。日台ともに法廷闘争により当事者が望まない手術要件を撤廃する方向に向けて法変容が進んでいること、歴史的に根深いトランスジェンダーへの排除、差別が、近時、両国でも猖獗を極めていることが確認された。質疑では、トランスジェンダーの脱医療化、トランスバッシングの歴史と根源、性教育、ジェンダーフリートイレの普及、兵役とトランスジェンダー、ノンバイナリーの承認などについて議論した。日台のトランスジェンダーがおかれている状況につき理解を深め、問題の所在、対応策について検討をした。結果として費用対効果の高い国際シンポジウムを開催することができた。国際連携本部の助成に深く感謝したい。